

11月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

本来実施されるべき「運動会」が、「YMCAデー」と名前を変えて、10月末に実施されようとしています。コロナ禍前の当たり前が、まったく当たり前でない状況の中にあっても、子どもたちには、毎日のように運動あそびを楽しむ姿を見ることができます。幼稚園では、子どもたちの前で「練習」という言葉は使いません。『1つの競技をみんなで力を合わせて練習し、その成果を見てもらう』言葉の聞こえは良いですが、成果を見せるために練習するとも捉えることができます。しかし、幼稚園では主人公は子どもたちであって、子どもたちがその競技にどう取り組んでいるのか？そのありのままの姿を見ていただきたいと思っています。「今日も練習、明日も練習…」という日々であれば、子どもたちの成果と反比例して、モチベーションは下がっていきそうです。「YMCAデー」が1つの行事として終わるのではなく、またその先に運動あそびが日常保育の中で広がっていくことを願っています。

そんな中、毎日のように園庭では、リレーあそびが行われています。年長児はトラック1周をバトンでつなぐリレーあそびに白熱しており、自分たちで職員室に「バトン」「タスキ」を取りに来て、コーンを出して準備をします。トラックを園庭にどう描こうか？考えた子どもたちの大半は、誰か先生を見つけて「描いて！」と頼むのですが、頼む先生が見つけれなかった時に、自分たちでじょうろに水を入れて描いている姿がありました。そのトラックは、かなり歪な形でしたが、やりたい遊びを実現するために動いた結果であり、主体的な遊びであることがよくわかります。このリレーあそび、実はこれだけではありません。朝のコーナー保育中での出来事なので、園庭では他の遊びをしている子どもたちもたくさんいます。トラックを描いたからといって、リレーをするお友だちだけの占有場所ではありません。横切っているお友だちもいれば、コース上に座って砂あそびをしているお友だちもいます。たまにトラックを白線で描いた時には、白い粉（触っても害のないものです）が珍しく、ほぼ線上に砂あそびのお友だちが障害物となって立ちはだかります。走っている方からしたら、迷惑な話ですが、それを文句1つ言わず、華麗にそんなお友だちを避けながら走っているのです。

設定された場所やルールの中では、きっとそのルールから逸脱することは非難の対象となります。コース上に邪魔する人や物があれば、きっとそれを排除しない限り、スタートできないでしょう。勝ち負けに対する評価があるとしたら、負けた時はその原因探しを追求するかもしれません。しかし、主体的な子どもたちの遊びには、そういった設定やルールに縛られることなく、困難な状況に直面しても乗り越えて楽しむことができます。「リレーあそび」だけでなく、すべての遊びにおいて、子どもたちが主体的に取り組み、どんな状況が起こっても「それを良し」として楽しめる。そんな子どもたちであって欲しいと思っています。

【年主題】

『共に喜んで』～すべての歩みの中～

【年主題聖句】

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

(コリント信徒への手紙Ⅰ 12章26節)

11月主題 「ありがとう」

聖句 「わたしの恵みはあなたに十分である。」

(コリント信徒への手紙Ⅱ 12章9節)